

復活徹夜祭ミサ説教

2022年4月16日

鹿児島カテドラル・ザビエル教会

皆さん、先ず、主のイエスのご復活おめでとうございます。

復活徹夜祭のミサは人類の救済を記念するものです。記念する、と言っても過去に一回限りの出来事を思い起こして懐かしがる、いわゆる記念祭ではありません。イエスの墓を訪れた婦人たちに、天使とおぼしき方の言葉が、それを示しています。

「なぜ、生きておられる方を死者の中に捜すのか、あの方はここにはおられない。復活なさったのだ。」

この言葉こそ、神が私たちに問いかける究極的な問いかけであります。私たちは今日からこの問いかけに応答していく人生になります。私たちは今日まで、四旬節を過ごしてきました。この期間、神の手によってエジプトでの奴隷状態から解放され、祖国への自由を求める旅に出たイスラエル民族の歴史を追隨してきました。それは、モーセ

を介していただいた、神の言葉である律法に準じて建立した国家であっても、敵の侵略により、破壊され絶望を味わいましたが、神から遣わされた預言者を通して、励まされた民は再度、ユダヤ教の宗教国家を再建しました。ユダヤ人として生まれたイエスはこの国家を担うメシア（救い主）と一般大衆から目されましたが、この期待は裏切られ、時の宗教上と政治上の権力者により、抹殺されてしまったのです。抹殺されたという意味は、イエスは単に政治犯として死刑に処せられたのではなく、彼の思想、大衆の彼への人気、つまり民衆に及ぼす影響を嫌い、イエスの存在そのものを人々の記憶から、すなわち人類の歴史から、葬り去ろうという彼らの意図がうかがえます。このことは、4つの福音書に描かれている、イエスの受難物語を熟読し、黙想すれば容易に理解できます。無実の一人間を悪意ある人々は何としてでも亡き者にしていくという思考と行動は、どう見ても非合理的であり、真理に背くものでした。

このイエスの受難物語と今日から始まるイエスの復活の物語は、いろんな理由をつけても結局は人間を死に追いやり、それを志向する死の文化と、あくまで命を志向する、希望と和解の文化の違いが明確に私たちの眼前に現れたことを意味しています。

「なぜ、生きておられる方を死者の中に捜すのか」という天使とおぼしき方の言葉はそのことを言い表していると思います。

ところで、「イエスは生きている」という婦人たちの通報を弟子たちはにわかには信じる事ができませんでした。理由はよくわかります。神のなさる業を瞬時に理解できることは人間には無理なことだからです。洗礼を受けて何年も経つ人から、「最近イエスの復活がどうしても信じられない」という発言を聞くのはまれではありません。今日から始まる復活節は聖霊降臨まで50日間続きます。典礼ではこの期間をミスタゴジア、つまり、神の救いの神秘を解き明かす季節、と命名しています。この季節、神からの解答に心の目を開いていきましょう。

今日、世界中の人々が、心を痛めているウクライナでの戦争の一日でも早い、終戦を祈りたいと思います。私たち人間が神の平和を希求し、いくら正論を掲げても結局は人間を死へといざなう悪魔の扇動に抵抗できますように、そして、平和を希求する、大衆の叫びが、この世を支配している各国の指導者たちの心に響き、和解への道を探ることができるよう、イエスを復活させた、全能の神に心からの祈りをささげたいと思います。